



雨を表す言葉を知り楽しもう!!



今年の四国地方の梅雨入りは、5月29日（月）で、平年よりも7日早い梅雨入りでした。勝手なもので梅雨に入ってみると、じめじめとした感触が嫌で、早くからとした天気、つまり梅雨明けが来ないかなと思ってしまいます。ただ、こればかりはどうすることもできないので、じたばたせず雨を楽しむ方法を考えるのが賢明かなと思ったりもします。

ところで、次の江戸時代の川柳は何と読むでしょうか。

「同じ字を 雨雨雨と 雨て読み」

これは、「同じ字を 雨(あめ)雨(さめ)雨(だれ)と 雨(ぐれ)て読み」と読みます。漢字一字「雨」だけだと(あめ)と読みますが、「春雨」となると(はるさめ)、「五月雨」となると(さみだれ)、「時雨」となると(しぐれ)と読みます。「雨」にはたくさんの読みがあることがわかります。

ちなみに、「春雨」、「五月雨」、「時雨」の意味や有名な詩歌は次のとおりです。

「春雨」：春降る雨。特に若葉の出る頃。静かに降る細かい雨。

「くれなるの 二尺伸びたる 薔薇の芽の 針やはらかに 春雨の降る」

正岡 子規

「五月雨」：梅雨。この頃に降る長雨。

「五月雨を 集めて早し 最上川」 松尾 芭蕉

「時雨」：秋の末から冬の初め頃に、降ったりやんだりする雨。

「初時雨猿も小蓑を欲しげなり」 松尾 芭蕉



昔から、日本人にとって生活をしていく上で「雨」は身近なものでした。したがって、たくさんの「雨」を表す言葉が生まれました。日本人の情緒を表す言葉や生活に密着した言葉が生まれました。雨を表す言葉は400語以上あると言われています。雨に関するたくさんの言葉を調べてみると、その言葉に込められた思いや意味がわかり、雨との生活も楽しくなると思います。日常生活では、次の言葉もよく耳にします。霧雨(きりさめ)、氷雨(ひさめ)、涙雨(なみだあめ)などです。調べてみませんか。